

## 「個別の指導計画」の作成例

盲学校 個別の指導計画

学級 氏名	2年〇組 愛知 太郎	教科・領域等	自立活動	週時数	1	指導者	〇〇 〇〇
生徒 実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の移動は単独でできる。</li> <li>・白杖操作は一通り学習しているが、実際に独りで歩いた経験はない。</li> <li>・自ら積極的に話し掛けたり、援助を依頼したりすることは苦手である。</li> </ul>						
年間 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白杖歩行の基本技術を習得する。</li> <li>・保有感覚を十分活用して周囲の状況を確認できるようにする。</li> <li>・学校から最寄りのバス停までの歩行を確立する。</li> </ul>						
学期	指導内容（単元等）	個別の指導目標・手だて			評価・所見等		
1	白杖歩行の基本技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド法、タッチテクニックなど</li> <li>・白杖を用いた直線歩行</li> </ul> 空間概念の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東西南北の定位</li> <li>・地理的空間定位と心的地図</li> <li>・校舎内の教室位置の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、振り幅、リズムなどに気を付け繰り返し練習する。</li> <li>・学校周辺の道路を実際に歩いて見る。</li> <li>・空間座標軸に自分軸を位置付ける。「正面は北、この隅は？」</li> <li>・心的地図上の位置と地理的定位の特徴を照合する。</li> <li>・校舎内の目的教室に、いくつか異なる経路で移動する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の慣れた場所では正しい姿勢で自信をもって歩くことができるが、校外へ出た途端に動きがぎこちなくなってしまう。</li> <li>・自分軸で考えることができるが、動きの変化に従って空間定位することが難しい。</li> <li>・校舎内は、いつも同じ経路で移動していることが分かった。</li> </ul>		
2	住宅街の歩行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路上の障害物回避</li> <li>・走行中の自転車回避</li> <li>・走行中の自動車音源定位</li> <li>・ランドマークの発見</li> <li>・交差点の発見</li> <li>・交差点の横断</li> <li>・SOC（直角の方向取り、元のルートへの復帰）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方向を維持して直線歩行できるようにする。</li> <li>・自転車は自動車の走行音に注意して、位置や進行方向を把握する。</li> <li>・適切なランドマーク（手掛かり）を選択して利用する。</li> <li>・交差点横断時の方向維持、出発判断、ベアリング定位を繰り返し練習する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカルな白杖操作で、直線歩行はスムーズにできるようになった。</li> <li>・回避からの回復行動の習得にやや手間取った。</li> <li>・交差点を横断するときの方向維持が難しく、独りでは危ない場面が何度かあった。出発時の方向決めと周囲の音への注意が課題である。</li> </ul>		
3	準繁華街の歩行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・信号の利用</li> <li>・選択聴音による環境把握</li> <li>・目的地発見</li> <li>・コース定位（理解と立案）</li> <li>・コース定位（コース変更）</li> <li>・逆コース理解</li> <li>・混雑時の歩行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声信号を利用したり、車音で進行方向を弁別したりする。</li> <li>・騒音の中から必要な聴覚情報を得るようにする。</li> <li>・目的地に対して適切なコースを立案したり、状況に応じて変更したりする。</li> <li>・混雑時の白杖操作、コースの保持、階段発見などの方法を知る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の音を聞いて活用することがなかなか難しい様子である。</li> <li>・提示されたコースを歩くことはできるが、自分でコースを立案することは難しい。地理的な把握が十分にできていないようである。</li> <li>・混雑時のマナーなど、周囲への気配りにやや欠ける面が見られた。</li> </ul>		
今年度の 評価	白杖の操作技術はほぼ習得できている。特に2学期からは単独通学に対する意欲が芽生え、それとともに技術も向上してきた。ただ、空間認知にやや問題があるのか、コース定位をするのが苦手なようである。歩行の起点と目標を意識して、方向と距離を予測したりするなど、ふだんから心的地図を描く訓練を積む必要がある。また、周囲の音を十分に聞くことと白杖で確かめることを併用して、より安全で確実な歩行ができるよう心掛けていってほしい。						
次年度への 課題	路上に出てからは、方向取りや障害物回避からの回復の指導に手間取り、エスカレーターや公共交通機関の利用、援助依頼の仕方などの学習までには至らなかった。単独通学や高校進学に向けて、来年度は是非取り組む必要がある。また歩行時のマナーについても指導していきたい。						